

社会福祉法人 善光会
令和6年度 事業報告書

目次

第一章	法人全体事業報告	1
第二章	特別養護老人ホーム フロース東糀谷	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム フロース東糀谷(介護老人福祉施設)	4
Ⅱ.	ショートステイ フロース東糀谷(短期入所生活介護)	6
Ⅲ.	老人デイサービスセンター フロース東糀谷(地域密着型通所介護)	8
Ⅳ.	デイサービスセンター フロース東糀谷(認知症対応型通所介護)	10
第三章	介護老人保健施設 アクア東糀谷	
Ⅰ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(介護老人保健施設)	12
Ⅱ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(短期入所療養介護)	14
Ⅲ.	介護老人保健施設 アクア東糀谷(通所リハビリテーション)	15
第四章	障害者支援施設 アミークス東糀谷	
Ⅰ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(施設入所支援/生活介護)	17
Ⅱ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(短期入所)	20
Ⅲ.	障害者支援施設 アミークス東糀谷(生活介護/通所)	23
第五章	特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム バタフライヒル大森南(介護老人福祉施設)	26
Ⅱ.	ショートステイ バタフライヒル大森南(短期入所生活介護)	28
第六章	特別養護老人ホーム バタフライヒル細田	
Ⅰ.	特別養護老人ホーム バタフライヒル細田(介護老人福祉施設)	30
Ⅱ.	ショートステイ バタフライヒル細田(短期入所生活介護)	32
第七章	認知症対応型共同生活介護事業 フラクタルビレッジ	35
Ⅰ.	フラクタルビレッジ西六郷(認知症対応型共同生活介護)	
Ⅱ.	フラクタルビレッジ羽田(認知症対応型共同生活介護)	
Ⅲ.	フラクタルビレッジ大森南(認知症対応型共同生活介護)	
第八章	ケアサポートセンター	36
Ⅰ.	リンクス羽田(居宅介護支援)	
Ⅱ.	リンクス大森中(居宅介護支援)	
第九章	サンタフェ総合研究所(福祉事業者等への経営支援事業他)	37

第一章 法人全体事業報告

1. 法人事業の理念

- (1) オペレーションの模範となる
- (2) 業界の行く末を担う先導者になる

2. ビジョン

- (1) 諦めない介護
- (2) 新たな価値を生み出す真の介護DX
- (3) 前に進み続けるための組織の強化
- (4) 社会変革のための訴求と先導

3. 令和6年度の経営方針

“介護テクノロジーを活用した効率的オペレーション”

“物価高騰など外部環境の変化に柔軟に対応しお客様に安定し継続した生活を提供”

令和6年度も、介護福祉業界に対して介護品質向上とオペレーション効率化への意識啓発を行ってまいりました。併せて、善光会で確立したオペレーションモデルが国の介護保険事業を支える経営基盤の一つとなるための活動に注力してまいりました。

令和6年度より、介護報酬にて善光会での取組がモデルとなった生産性向上推進体制加算の算定がスタートいたしました。このように全国の介護事業所のオペレーションの変革に資する取組の発信を進めてまいります。

スマート介護士については、AIの活用を盛り込むことで、世の中の技術の進歩を介護領域に取り込むための施策を実施しております。

事業継続計画（BCP）については、新型コロナウイルス感染症予防を含めた内容を盛り込み、法人内での計画実行に向けて取り組んでまいりました。

介護品質向上においては、昨年度に引き続き独自で構築したサービス品質評価フレームワークの利用を進め、介護アウトカム（介護サービスの成果）を可視化し測定することで、定量的なデータに基づいた効果あるサービスの効率的な提供に努めました。

サービス提供(オペレーション)効率の向上においては、SCOP及び関連するアプリケーションの利用を進め、経営効率の向上や職員の負担軽減を図りました。また、国内最先端の福祉施設として、介護ロボット機器の活用による効率化に不可欠な「連続的かつ柔軟なオペレーション創造」にかかるノウハウを、福祉業界の発展のために広く提供することに努めました。

さらに、介護労働市場の人材不足の深刻化に対して、国籍や年齢に問わずに様々な人材の採用を進め、多様な個性が組織の成長を加速化させるダイバーシティ環境を構築し、より一層一人一人の職員が働きやすい組織とすることで、職員の長期定着化を図りました。

(1) ガバナンス体制

- ① 予実管理において各費目とその内訳および施設や部門とのリンケージを確立させ、責任所在を明確化することで経営意識の醸成を図りました。

- ② 収益管理において事業別に収益予実差異を細分化し、継続的に差異発生原因を把握できる実績管理体制を構築しました。

(2) 経営戦略

- ① 同一もしくは、近隣地域にて複数種類の事業を展開している強みを活かし、事業間シナジーを通じてお客様の状態やその変化に応じた包括的サービス提供体制を強化しました。具体的には、稼働率が法人内で比較的低稼働であった介護老人保健施設の事業を今まで以上に利用者から選ばれるよう稼働率の向上に努めました。
- ② 経営基盤強化を目的に、サービス品質管理プラットフォームの開発やオペレーション効率向上に必要な能力定義等を行いました。

(3) マーケティング戦略

- ① コロナ禍において外出等の機会が失われてしまったものの、他企業と連携し、室内でも楽しめるコンテンツの充実を図りました。
- ② お客様の嗜好に合わせた多様な経験の場を提供するために、積極的に地域資源を活用したサービス設計を図りました。
- ③ 地域福祉を担うべき存在である社会福祉法人としての役割に鑑み、地域との連携が分断されつつある状況においても、積極的情報発信に努めました。
- ④ 事業展開地域のコミュニティ機能を維持・向上すべく、より親しみやすい空間づくりに取り組みました。

(4) 財務戦略

- ① 水道光熱費、消耗品、食材や飲料、各種業務委託契約に対する抜本的な見直しを行い、更なるコストカットを図りました。また、物価高騰に対する助成金などを積極的に活用していきました。
- ② 設備や車両等においてもリース転換を含めた、資産の流動化を検討し、運営コストの圧縮を図りました。

(5) オペレーション戦略

- ① 多くの最新の介護機器等を試験導入することで培ってきた経験を活かし、最新テクノロジーを活用した業務効率の高いオペレーションモデル構築を推進しました。
- ② バックオフィス部門においては、AI 導入等を検討しながら、アウトソーシング化を検討いたしました。
- ③ 各種業務工程に SCOP に関連した独自開発のアプリケーション等を導入することで、効率化を進めました。
- ④ 事業毎に異なる環境とその変化に柔軟に対応すべく、施設の特性を活かしたサービス提供体制を開発・再構築しました。

(6) 人事戦略

- ① 明確な評価基準を基にしたキャリアパスを引き続き活用し、職員の自発的な能力開発を促す職場作りに取り組みました。

- ② 価値観が多様化する中、また福祉人材の需給状況が悪化する中、多様な職員が活躍できる職場の創出を目的に、シニア世代や外国人従業員が働きやすい環境整備をいたしました。
- ③ 採用環境が悪化する中、従来の採用広告出稿や人材紹介等の施策にとどまらず、経営資源を集中的に投下し、積極的に新たな独自施策を企画立案、実施しました。

(7) リスクマネジメント対策

- ① 経済の不確実性が高まる環境下で安定的にサービス提供できるよう、物価上昇に耐えうる各種備品・消耗品の調達ルートの整備に取り組みました。
- ② 自然災害発生時等、いかなる状況においても安定的にサービスを提供できるよう、各種災害対策訓練を継続的に実施するとともに、基準期間二倍の運転資金の確保と飲食料備蓄や災害対策用品の管理徹底をいたしました。
- ③ 感染症やケガを含む介護事故の事例を個別的・統計的に分析し、施策立案、実施、評価のPDCAサイクルを回すことで予防能力を強化しました。
- ④ 新型コロナウイルス感染症に対しては、新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの見直しを行いながら、施設内での感染の拡大予防に努めました。

(8) R&D 戦略

- ① 最先端介護施設としての使命を果たすべく、業務効率化を目的として、特別養護老人ホーム バタフライヒル細田と特別養護老人ホーム フロース東糶谷の指定ユニットにおいて、集中的に先進的な介護ロボット等を導入する「ハイブリッド特養プロジェクト」について、対象フロアを一層拡大いたしました。
- ② 「ハイブリッド特養プロジェクト」で優れた効果が認められた介護ロボットについて、他の事業所も含め、導入範囲を拡大しました。
- ③ 先端テクノロジーを駆使して高効率な介護サービスを提供するための施設オペレーションにかかる技術を形式知化した、介護資格「スマート介護士」の内容の更なる拡充をいたしました。

(9) コミュニケーション戦略

- ① 新型コロナウイルス感染症も落ち着きが見られたため、地域行事などへの参加を再開し、地域の方との繋がりを再構築できるように、この1年取り組んできました。
- ② 新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、対面での面会を継続して再開してきました。感染症の予防を行いながら、お客様とご家族様で過ごす時間が充実できるように取り組みました。
- ③ 今年度も、事業展開地域以外での地域貢献活動を実施しました。

第二章 特別養護老人ホーム フロース東糀谷

I. 特別養護老人ホーム フロース東糀谷 (指定介護老人福祉施設)

1. フロース東糀谷としての取り組み

(1) 時を感じることでできる居場所作りとケアサービス

最期まで、その人らしく生きる人生を送っていただくため、ご本人様、ご家族様、職員が一丸となり、フロース東糀谷の介護指針に沿い「あきらめない介護」を実践し、その人らしい人生プランを実現できるサービス提供を目指しました。生活の中で当たり前四季と1日の時を感じることでできる居場所作りとケアサービスの提供に努めてまいりました。

コロナ禍以降実施できていなかった、施設や法人でのイベントを少しずつ開催することで、お客様にとって楽しみがもてる機会を増やすことができました。今後は、以前行っていた、夢プランなどを再開していきたいと考えています。

お看取り介護では、ご本人様、ご家族様が望む最期を迎えられるように、個々に見合ったご提案やご要望を実現できるお看取り介護を多職種と連携し、実施してまいりました。ご家族様との最期の時を大切に、支援に努めました。

(2) 安定した財務基盤の確立

質の高いサービスを継続提供し続けるために、各委員会を中心に、様々な取り組みを実践してまいりました。その中でも、ICTを用いたケアにより、適切なケアの実施、病気の早期発見に努め、疾病や事故による入院予防に努めました。ただ、結果としては、平均稼働率は96.37%と予算の目標には達することができませんでした。

今年度も継続して入院が抑制できるように、ケアの質の向上とデータ活用を進めてきたいと思えます。

(3) 介護DX化によるオペレーション変革

ハイブリッド特養プロジェクトとして、モデルフロア・ユニットを構築し、最先端技術の本格導入に向けた現場レベルでの運用を実施してまいりました。実証事業にも多く参画し、様々な最先端技術の導入を行い、さらに導入フロア、ユニットを広げ、施設全体での実用化を目指しました。

介護DX委員会の中でも、オペレーションの見直しや機器の使用方法などを検討してテクノロジーのさらなる活用に取り組みました。

(4) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員の主体的な施設運営参加を促し、あるべき施設像を追求いたしました。各種委員会に一般職員も属し、現場リーダーを中心に運用いたしました。個々のスキルや得意分野を活かせる場を作ることにより、やりがいや達成感を感じ、個々の成長と主体性を醸成しました。

また、職員に対し自分自身の年間目標を設定して取り組めるよう促し、個々のレベルアップを向上できるように取り組みました。引き続き、目標設定を行いながら、職員の育成に努めていきます。

(5) 地域共生社会

新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたこともあり、地域行事などへの参加を再開しました。コロナ禍で希薄になった地域との関係を少しでも改善できるように取り組んできました。今後も継続して地域との関係作りに努めていきます。

(6) 災害対策について

事業継続計画（BCP）に沿って、研修などを行ってきました。災害が発生した際に、継続して事業の運営が行えるように取り組んできました。今後も事業継続計画を見直しながら、非常時に対応できるように努めていきます。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員会議・研修

別紙2のとおり

II. ショートステイ フロース東糀谷 (短期入所生活介護)

1. フロース東糀谷としての取り組み

(1) 時を感じることでできる居場所作りとケアサービス

在宅生活を継続できるように「できること」を日常に取り入れて、その人らしい人生が当たり前に行えるように、ご本人様、ご家族様、職員が一丸となりあきらめない介護の実践に努めました。また、この場所が人生を楽しむため選択いただける場所となるように皆様の居場所作りとケアサービスに努めてまいりました。

生活の中で四季と1日の時を感じていただける居場所づくりとケアサービスの提供に努めました。

(2) 継続した在宅生活が実現できるサービスの創出

在宅生活を継続していけるように、施設での生活も在宅生活に近づけながら対応を行ってきました。

睡眠状態の可視化、お客様の記録情報及び生体情報を基に、在宅での生活介入・助言ができるように退所報告書作りを進めることができました。その中で、アセスメント力の強化、職員のケアの質の向上、ご家族様との関係の構築にも繋げることができました。

(3) 個々に応じた宿泊プランとおもてなし

アセスメントシートを作成し、個別ケアの充実に努めました。より詳細な情報と個々のニーズを確認し、個々に見合ったプランの作成を目指しました。また、個々の要望にお応えできるように「リクエストプラン」を導入しました。

できる範囲でお客様のリクエストに合わせた取り組みを行いました。

(4) 認知症予防、認知症進行防止のケアサービス

認知症の予防や進行防止にチームで取り組んできました。それぞれのお客様の認知症の症状について情報共有を行い、ケアの検討、統一を行いました。認知症ケアの課題解決も行えるように、更なる認知症ケアのスペシャリストの育成に努めました。

(5) 介護DX化によるオペレーション変革

ハイブリッド特養プロジェクトとして、モデルフロア・ユニットを構築し、最先端技術の本格導入に向けた現場レベルでの運用を実施してまいりました。実証事業にも多く参画し、様々な最先端技術の導入を行い、さらに導入フロア、ユニットを広げ、施設全体での実用化を目指しました。

介護DX委員会の中でも、オペレーションの見直しや機器の使用方法などを検討してテクノロジーのさらなる活用に取り組みました。

(6) 安定した財務基盤の確立

より多くのお客様にご利用いただくために、入所施設と連携を図り、空床利用も積極的に活用しました。また、看護職員等の各専門職とも連携を図り、重度要介護者、医療依存度の高いお客様の受け入れや、居宅支援事業所とも連携し、緊急のご利用の方も受け入れられる体制を整えました。

(7) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員の主体的な施設運営参加を促し、あるべき施設像を追求いたしました。各種委員会に一般職員も属し、現場リーダーを中心に運用いたしました。個々のスキルや得意分野を活かせる場を作ることにより、やりがいや達成感を感じ、個々の成長と主体性を醸

成しました。

また、職員に対し自分自身の年間目標を設定して取り組めるよう促し、個々のレベルアップを向上できるように取り組みました。引き続き、目標設定を行いながら、職員の育成に努めていきます。

(8) ご家族様と居宅支援事業所との連携

ご利用期間中のサービス提供状況や生活状態をご家族様、担当ケアマネージャーと共有しております。また、ケアの利用中の気づきや変化を共有することで、個々の適切なケアへの支援に繋がるよう努めました。施設での生活のみならず、在宅生活へのアプローチができるように、積極的な連携を図ってまいりました。

(9) 地域共生社会

新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたこともあり、地域行事などへの参加を再開しました。コロナ禍で希薄になった地域との関係を少しでも改善できるように取り組んできました。今後も継続して地域との関係作りに努めていきます。

(10) 災害対策について

事業継続計画（BCP）に沿って、研修などを行ってきました。災害が発生した際に、継続して事業の運営が行えるように取り組んできました。今後も事業継続計画を見直ししながら、非常時に対応できるように努めていきます。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員会議・研修

別紙2のとおり

Ⅲ. 老人デイサービスセンター フロース東糶谷 (地域密着型通所介護)

1. 令和6年度の取り組み

(1) 自立支援、重度化防止に努めました

LIFE をツールに管理栄養士とお客様の栄養状態について共有し、適切な食事の形態や摂取方法・栄養状態の維持改善に努めることができました。口腔状態や栄養状態評価について、定期的にご本人様、ご家族様、担当ケアマネージャーへ情報を共有し、介護サービス事業者全体での関わりにも努めました

(2) ご家族様との関係づくりの強化

インスタンスカメラを使用しその場ですぐに写真を渡せるよう業務効率化を図りつつ、不定期ではありましたが実施することができました。また、法人公式インスタグラムにもデイサービスの様子掲載させていただき、透明性のあるサービス案内に努めました。

(3) 能力に応じた自立した活動の取り組み

菜園活動、ガーデニングを実施しました。定期的に屋外に出て、外の季節を感じてもらいながら、適度な運動も行うことができました。

レクリエーションや食のイベントは、年間計画に基づき実施しております。コロナ禍でも安全に楽しく行える取組を計画することができ、心身機能の維持向上に努めることができました。外出は感染対策上控えましたが、WEB ツール等を用いて幅広いレクリエーションの提供に努めました。

(4) 選択制の充実

アクティビティの充実を図り、選択性を取り入れることでお客様の多様化したニーズに応えることを目指しました。

定期的なミーティングを開催し、年間計画に基づいたレクリエーションの練度の向上に努め、選択的な活動については毎月選択食を開催しました。

運動は機能訓練指導員が中心となってプログラム作成、季節ごとのイベントに絡めた運動を計画実施し、季節感のある運動を実施することができました。創作、調理レクリエーションも、別紙年間計画に基づき実施することができました。

(5) 在宅生活を支えるサービスの創出

看護師による口腔状態のアセスメント、管理栄養士による栄養アセスメントを実施し、低栄養予防に努めました。定期的な食事提供が必要なお客様へ、事業所で調理したお弁当の提供を案内し、定期的な購入に至っております。

自宅および生活課題を抱えている方には個別機能訓練の提案を行い、個別の訓練プログラムを立案・実施することができました。

(6) 居宅介護支援事業所との連携

居宅介護支援事業所へ毎月の活動報告を行うとともに、適宜必要なサービスの提案を行ってまいりました。

(7) 地域共生社会への取り組み

施設感染防止対策のため、直接顔を合わせての運営推進会議は実施せず、書面報告での実施とさせていただきました。

外部ボランティアの受け入れは、上記対策のため未実施となりました。

職場体験については感染状況が落ち着いていた時期に、1件受け入れを行いました。

(8) サービスの質の向上

年間研修計画に基づき職員研修を実施してまいりました。認知症研修の他、個別に認知症介護実践者研修へ申し込みしましたが落選し受講はできませんでした。また、第三者評価実施し、アンケート調査からサービス品質向上に努めました。

(9) 効率的な運営

既存業務の効率化と改善について、適宜職員間で話し合う時間を設け、オペレーションの効率化に努めることができました。

実証実験の実施、メーカーや他事業所のノウハウを取り入れる視点で、実験への参加に努めました。

(10) 感染症・自然災害時における事業継続計画の策定

業務継続計画（BCP）を策定し、研修を実施しました。災害が発生した際にどのように対応していくべきかを検討しました。今後も継続して、研修や訓練を実施しながら、有事の際に対応することができるように取り組んでいきます。

(11) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員に対し自分自身の年間目標を設定して取り組めるよう促し、個々のレベルアップが向上できるように取り組みました。引き続き、職員面談などを通して目標設定を行いながら、職員の育成に努めていきます。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員会議・研修

別紙2のとおり

IV. デイサービスセンター フロース東糀谷 (認知症対応型通所介護)

1. 令和6年度の取り組み

(1) 自立支援、重度化防止に努めました

在宅生活を継続して営んでいただけるように、お客様・ご家族様に対し積極的な支援を行いました。要介護状態の予防、ADLの維持向上、自立支援、社会保障費の抑制に繋がる活動になるよう支援いたしました。

(2) 認知症ケアの取り組み

余暇活動に、菜園活動や創作等の体験型のアトラクト、生活リハビリを取り入れております。生活リハビリはお客様が普段自宅でも行なっている家事作業（洗濯物たたみ、洗濯物干し、テーブル拭き、食器拭き、掃き掃除など）を中心に行ない、在宅生活の継続を意識した取り組みを行ないました。

各活動に関しても五感を刺激し、人間らしく生きる人生を諦めないという考え方のもと、認知症の根治、認知症による周辺症状の緩和を目指し、認知症ケアの確立を目指しました。

(3) 選択制の充実

各お客様に合わせたアクティビティの充実を図り、選択制を取り入れることでお客様の多様化したニーズに応えることを目指しました。

(4) 在宅生活を支えるサービスの創出

一人暮らしや高齢者世帯で食事作りや買い物が困難であり、定期的な食事提供が必要なお客様へ、管理栄養士監修の栄養バランスのとれたお弁当の提供を行ないました。

また、LIFEを用いて管理栄養士とともにお客様の口腔・栄養状態についてアセスメント、モニタリングを実施し、栄養状態の維持・改善に努めました。

管理栄養士による昼食時間帯のラウンドも実施し、都度お客様の食事の様子についても情報の共有を図るよう努めました。

(5) お客様・ご家族様への支援

認知症対応型通所介護事業所とご家族様との緊密な関係を築き、協働でお客様の認知症介護を目指しました。居宅訪問やアセスメントツールを活用し、生活機能維持を図りました。また、ご家族様の負担軽減・孤独感を解消できるよう努めました。

(6) 地域への取り組み

保育所との交流会を実施し、お客様が地域の方と交流する機会の確保に努めました。

また、依頼のあった企業からの共同実証に積極的に参加し、お客様の新たな取り組みに対して挑戦する機会の提供、福祉業界改革の手助けとなるよう努めました。

(7) 効率的な運営

業務の効率化や改善について定例ミーティング等で話し合う機会を設け、オペレーションの効率化について職員の意識を高めることに努めました。

実証実験への参加、他事業所のノウハウも参考にしながら業務の見直しも行ないました。

(8) 感染症・自然災害時における業務継続計画の策定

業務継続計画（BCP）を策定し、研修を実施しました。災害が発生した際にどのよう

に対応していくべきかを検討しました。今後も継続して、研修や訓練を実施しながら、有事の際に対応することができるように取り組んでいきます。

(9) 利用稼働率向上に対する取り組み

利用稼働率向上のため、居宅介護支援事業所への営業などを行いました。またお客様に選んでいただける事業所となるように、イベントの開催やサービスの質の向上に努めました。

結果として、利用稼働率 85%以上の目標を達成することはできませんでしたが、今後もお客様に選んでいただける施設を目指し、取り組みを行っていきます。

(10) 日本一働きがいのある施設像の構築

職員に対し自分自身の年間目標を設定して取り組めるよう促し、個々のレベルアップが向上できるように取り組みました。引き続き、職員面談などを通して目標設定を行いながら、職員の育成に努めていきます。

2. 施設行事

別紙 1 のとおり

3. 職員会議・研修

別紙 2 のとおり

第三章 介護老人保健施設 アクア東糀谷

I. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (介護老人保健施設)

1. 運営方針の実践状況

当施設では、事業計画に基づき、医学的管理の下での看護・介護、リハビリテーション、栄養管理、食事、入浴などの総合的な支援を継続的に提供し、お客様の自立支援と在宅復帰の実現に向けた取り組みを着実に実施しました。

また、お客様主体の質の高いケアの提供を継続し、地域に開かれた施設として教育・啓発活動にも努め、地域における在宅ケア支援の拠点としての役割を果たしました。

2. 取り組み内容と成果

(1) お客様のニーズに合わせた生活支援

- ・入所時における多職種による直接説明とアセスメントを通じて、お客様一人ひとりの生活歴や目標に即した計画の立案と支援を実施しました。
- ・ユニットごとのレクリエーション活動や個別の余暇支援を通じて、認知機能や身体機能に応じた満足度の高い生活環境を整えました。
- ・チームケアの実践により、職種間の円滑な連携と専門性の発揮を促進し、課題解決に向けた包括的な支援体制を構築しました。

(2) リハビリテーションの充実

- ・在宅復帰支援では、ご家族様との連携のもと自宅環境を把握し、退所前の訪問調査、助言、訓練を実施しました。屋外歩行や調理訓練の実施により、実生活に即したリハビリを展開しました。
- ・多職種連携による「生活リハビリ」や調理レクの実施により、日常生活の中に機能訓練を組み込みました。
- ・機器の活用を含めた科学的根拠に基づくリハビリの提供と情報共有を推進し、信頼性の高い支援を実現しました。

3. 各種委員会活動の報告

施設全体のサービス品質向上のため、各委員会にて下記の通り活動を行いました。

(1) 身体拘束適正化・虐待防止委員会

身体拘束・虐待ゼロを継続し、不適切ケアの改善・予防活動を通じて安全で尊厳ある生活環境を維持しました。

(2) 感染症予防委員会

研修の実施、体調管理の徹底、マニュアルの見直しを継続し、感染症の早期対応体制を確立しました。

(3) 褥瘡予防委員会

多職種の視点での皮膚状態管理や栄養管理、ポジショニング支援などを実施し、褥瘡ゼロを達成しました。

(4) 事故防止検討委員会

ヒヤリハット事例の共有と対策、ICT活用などを通じ、事故発生リスクの最小化に努めました。

(5) 機能向上委員会

毎日の集団体操やリハビリを生活に組み込むことで、運動習慣の定着と社会的交流の促進に寄与しました。

(6) スマート介護士委員会

テクノロジーの活用に関する勉強会や実践を通じて、お客様の生活の質と職員の業務効率化を同時に図りました。

(7) 環境整備委員会

衛生的で快適な環境づくりを行い、事故防止にも寄与しました。

(8) 認知症ケア委員会（新設）

認知症の行動・心理症状へのアセスメントと多職種連携によるケア改善を実施しました。

研修参加により職員の知識向上も図りました。

4. 職員スキルアップと体制整備

居室担当制のもと、各専門職がケアカンファレンスに参加し、目標設定から実施・評価まで一貫した支援を行いました。

- ・委員会活動を通じて、職員が施設運営に能動的に関わる体制を構築し、当事者意識の醸成に努めました。
- ・外部、内部研修の積極的な受講を推進し、実践を重視した研修を継続しました。講師担当者の育成も併せて実施しました。

5. 稼働率向上に向けた取り組みと成果

入所案内・見学対応の業務分担により、職員全体で顧客対応力を強化しました。区内の病院・事業所への営業活動や情報発信を積極的に行い、新規顧客の獲得に繋がりました。

- ・早期の健康異変対応による入院回避や、在宅復帰支援チームの活動により、ベッド回転率の向上と在宅復帰率の改善を実現しました。

6. 総括

本年度は、施設理念に基づき全職員が連携し、質の高いサービス提供と、在宅復帰支援に注力した結果、事業計画で掲げた目標はすべて達成されました。今後も、地域社会において信頼される介護施設として、お客様一人ひとりに寄り添いながら、より質の高いケアとサービスの提供を目指してまいります。

7. 施設行事

別紙1のとおり

8. 職員会議・研修

別紙2のとおり

Ⅱ. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (短期入所療養介護)

1. 運営方針に基づく実施状況

令和6年度において、短期入所療養介護サービスは、在宅生活を継続するお客様お一人おひとりの心身機能の維持及び回復と、ご家族様の介護負担軽減を目的として、計画通りに運営いたしました。入浴、食事、排泄等の日常生活上の支援に加え、理学療法士等による個別機能訓練を継続的に実施し、お客様が安心して在宅復帰できるよう支援いたしました。

また、関係機関との連携についても、居宅介護支援事業者や地域包括支援センター等と密な情報共有を行い、在宅ケアと施設サービスが連動する体制を整え、総合的な支援を提供いたしました。地域に開かれた施設として、随時見学の受け入れや、地域リハビリテーション支援にも積極的に取り組み、施設の透明性を高めるとともに、在宅支援の拠点としての役割を果たしました。

2. アクア東糀谷としての取り組み

(1) お客様のできる能力の向上

- ・理学療法士、作業療法士等の専門職が、FIMを参考にした独自評価表を用いて、ご利用者様の「できる能力、できない能力」を把握し、個別支援計画に反映させました。
- ・全ご利用者様に対し、ご自宅での生活状況を把握するフェイスシートを作成し、生活背景に基づいた支援を行いました。
- ・1週間以上の短期入所を促進し、毎月継続的なりハビリテーションを提供しました。評価結果に基づいた目標設定と日々の訓練により、身体機能、生活動作の向上を実現しました。

(2) 在宅でのリハビリ方法の提案

- ・リハビリ職員と支援相談員が定期的にカンファレンスを行い、在宅生活での課題を抽出、共有しました。入所中はそれら課題の改善に向けた具体的なアプローチを実践しました。
- ・退所時には、ご家族様に対し「退所指導書」を用いて助言、提案を行い、在宅での生活がスムーズに再開できるよう支援いたしました。
- ・ご利用者様の状態に応じた自主トレーニングメニューを作成し、ご家族様へ提案することで、機能維持、再発予防に向けた取り組みを推進しました。

3. 今後の課題と展望

短期入所療養介護は、在宅支援の中核となる重要なサービスです。今後は、さらなるサービスの質の向上に向けて、ご利用者様、ご家族様、地域との連携を一層強化し、科学的介護の視点からのリハビリ評価の精度向上や、ICTの活用による支援内容の可視化にも取り組んでまいります。

4. 施設行事

別紙1のとおり

5. 職員会議・研修

別紙2のとおり

Ⅲ. 介護老人保健施設 アクア東糀谷 (通所リハビリテーション)

1. 運営方針に基づく実施状況

本年度、通所リハビリテーションアクア東糀谷では、お客様の居宅サービス計画に基づき、心身機能の維持・回復を目的としたリハビリテーション、認知症ケア及び日常生活支援を一体的に提供し、計画通りの運営を行いました。

ご自宅での生活を継続できるよう、通所時に実施するリハビリ内容を充実させ、常に在宅生活を見据えた支援を提供しました。加えて、ご家族様との定期的な情報共有を実施するとともに、居宅介護支援事業者、医療機関、地域包括支援センター等との密接な連携体制を強化し、地域における総合的なサービス提供を推進しました。

また、地域福祉貢献の一環として、介護教室を複数回開催し、施設の持つリハビリ知見や技術を地域に還元する取り組みも積極的に実施いたしました。

2. アクア東糀谷としての主な取り組みと成果

(1) お客様の身体機能および「できる能力」の向上

- ・お客様一人ひとりの身体状況や生活環境を、リハビリ職員が定期的にあセスメントし、それぞれに適したリハビリメニューを提供しました。
- ・サービス担当者会議には、リハビリ職員および介護職員が積極的に参加し、他事業所との連携により支援方法の統一を図り、継続的かつ効果的な支援を実現しました。
- ・在宅介護における課題が確認された場合には、課題解決に向けた具体的な提案を行い、必要に応じて環境調整や生活動作の改善に取り組みました。

(2) アクア独自のリハビリメソッド「アクアフィット」の確立と定着

- ・科学的介護情報システム（LIFE）に基づいた評価を定期的（3か月毎）に実施し、根拠に基づいた個別リハビリ計画の作成、見直しを行いました。
- ・マシーントレーニングやエルゴメーター、自主練習用メニューを積極的に取り入れ、数値化されたデータを活用して訓練内容の適正化と目標達成への動機づけを支援しました。
- ・ipad等のICT機器を活用し、認知機能訓練や作業訓練（作品制作等）を実施しました。精神賦活や巧緻性向上、認知症予防につなげる活動を行いました。
- ・ご家族様には毎月1回のリハビリ実施状況報告を通じて、情報を継続的に提供し、自宅でも継続可能な自主トレーニングを提案しました。ご家族様と連携して在宅リハビリ支援を強化しました。

(3) 在宅における医療・介護の連携強化

- ・医療機関からの情報提供を受け、退院後すぐにリハビリを開始できるようスムーズなサービス移行体制を整備しました。
- ・理学療法士等が退院前カンファレンスへ参加し、在宅復帰後の生活環境や必要な指導内容を共有し、退院後の連続した支援を可能とする体制を構築しました。

3. 今後の展望と課題

今後は、通所リハビリにおける「科学的介護」のさらなる実践と、ICTを活用した訓練内容の拡充を進めることで、在宅生活の質をより高めてまいります。

また、地域包括ケアの一翼を担う事業所として、医療、介護、福祉のネットワークを強化し、地域に必要とされる支援体制の確立に努めてまいります。

4. 施設行事
別紙1のとおり
5. 職員会議・研修
別紙2のとおり

第 四 章 障害者支援施設 アミークス東糀谷

I. 障害者支援施設 アミークス東糀谷 (施設入所支援／生活介護)

1. 運営

お客様のニーズを把握した施設個別支援計画に基づいたうえで、お客様の立場にたった支援を行いました。お客様が自分らしい生活、希望される生活を送れるよう、お客様の意思及び人権を尊重し、サービスの質の向上に努めました。

感染症対策を年間を通して徹底し、お客様に寄り添ったより良いサービスの提供に向け、諦めない介護を実践しました。

○サービス内容

(1) 最先端技術の導入

◇介護ロボット導入による業務効率化を目指し、お客様への直接支援の質の強化、職員負担を軽減することができました。

- ・HitomeQ ケアサポートの活用を進め、お客様の安全に配慮した生活を提供しました。
- ・眠りスキャンの活用を進め、お客様個々の睡眠の状況を可視化し、眠りの質の向上、健康の管理に活かすとともに、生活の質を向上させることができました。
- ・移乗用リフトの増台と活用を進め、ノーリフティングケアを推進しました。ノーリフティングケアによるお客様の安全への配慮と、お客様、職員の負担を軽減した環境作りをおこないました。

(2) 生活の充実

◇お客様一人ひとりの障害特性に寄り添った、個別ケアの提供ができました。

- ・お客様との面談から、個々の実現したいこと、したかったこと等のニーズの把握に努め、その達成を目標に設定し、意思決定支援の実現に努めました。
- ・支援の記録を充実させるとともに情報共有をリアルタイムで行なうことで、サービスの質を向上し、個別ケアの充実を目指しました。
- ・お客様個々の疾病、年齢を考慮しながら、目標を達成するための個別支援計画、1日のスケジュールを作成し、自立支援、生活の質の向上を前提に支援を実施しました。
- ・季節毎の行事に合わせて、イベントを行ない、お客様の生活の充実を目指し、イベント開催に際しては、お客様に役割をもっていただき、職員と一緒に活動していただく機会を提供できました。
- ・イベント開催は、ご家族様にご案内し、お客様とご家族様との交流する機会を提供しました。
- ・お客様の夢プランの企画、実現はできませんでした。
- ・ユニット費を用い、お客様の個別性に合わせたサービスをユニットごとに提供できました。

(3) 食事の充実

◇お客様にとって楽しみのある食事であるために、「美味しく、楽しく、健康に、食べる事は生きること。」を実践し、お客様の満足度の向上と食欲の増進ができました。

- ・お客様の嚥下能力の再確認し、適切な食事の形態、食事介助の方法による提供を目指しました。
- ・調理アトラクトを毎月行い、普段にはない食事、おやつを提供しました。
- ・お客様がご自身で食事を選べるよう、選択食の機会を提供できました。
- ・お客様に対して嗜好調査を行い、調査結果に基づいたメニューを提供しました。

(4) 権利擁護の徹底

◇権利擁護委員会において、継続的な虐待防止、身体拘束適正化、苦情解決に努めました。

- ・権利擁護委員会を原則、隔月 1 回以上開催しました。
- ・虐待防止については、全職員対象で虐待セルフチェックシートを年 2 回実施し、職員の意識向上に努めました。
- ・身体拘束が必要となった場合は、法で定めた手順に従い、身体拘束の必要性を十分に検討した上で、適切な対応を行いました。また身体拘束解除についての検討を継続的に行いました。
- ・委員会において、虐待、身体拘束に関する研修を実施し、虐待防止、身体拘束に対する職員の理解の向上に努めました。
- ・苦情解決については、お客様やご家族様に感じたことを意見しやすいよう、定期的な話し合いの機会を提供し、安心して生活できるように努めました。

(5) 健康管理

◇感染症に対する対策の基本である、1. 感染源の排除 2. 感染経路の遮断 3. 宿主(人間)の抵抗力の向上、これらを念頭におき感染症対策を講じました。

- ・日々の健康管理においては、お客様の日々の体温、血圧測定や体調の確認等を徹底しました。
- ・感染症予防委員会を原則、隔月 1 回以上開催し、感染症の流行情報収集と予防対策に努めました。
- ・委員会において、感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の知識の補強に努めました。

(6) 社会性の確保

◇お客様個々に外出機会を提供することはできませんでしたが、地域との結びつきを重視した支援を行い、生活の質の向上に努めました。

- ・買い物や鑑賞等、お客様個々が希望した外出を行うことはできませんでしたが、社会とつながる機会を提供しました。
- ・地域のボランティアの受け入れ、地域行事の防災訓練、盆踊り、祭事などへ参加し、積極的に地域との連携に努めました。

2. 組織管理

お客様に高いサービス品質を提供するために、職員個々が自身の感じたことを提案できるよう職場環境を整備し、職種を越えたコミュニケーションの活発化を図れる雰囲気の良い職場を目指しました。また職員自身の意見や提案が施設運営に反映されるような仕組みを取り入れ、職員個々の働き甲斐につなげることで、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう努めました。

(1) 研修等

◇職員個々の支援能力向上のため、障害特性について理解できるような外部研修への参加、内部研修を充実させ、支援力向上の機会を作り、生活支援員が積極的に研修に参加できるように努めました。

- ・内部研修として、オンラインでの研修の他、専門職、各委員会による研修を年間を通じて行いました。
- ・お客様の障害特性を理解するための研修に参加し、支援力の向上、生活の質の向上に努めました。

3. 安全管理

◇安全かつ適切に、質の高いサービスを提供するために、事故防止に努めました。

- ・リスクマネジメント委員会を毎月1回開催し、事故の再発防止に努めました。
- ・事故発生後は、速やかにリスクマネジメント委員を中心とした事故カンファレンスを実施し、HitomeQ ケアサポートを活用した原因の究明や再発防止策の検討をすることができました。

4. 防火・防災管理

◇お客様に安心して安全な環境で生活していただくために、防火、防災管理を徹底しました。

- ・お客様参加型の防火、防災訓練を行いました。
- ・災害発生時は、大田区の障害福祉避難所として、その機能を果たすよう努めました。

5. 行事

別紙1のとおり

6. 職員会議・研修

別紙2のとおり

Ⅱ. 障害者支援施設 アミークス東糀谷 (短期入所)

1. 運営方針

短期間の入所を必要とするお客様に対し、できる限り在宅に近い環境の中で、ご家族様、関係機関との連携をはかりながらお客様の立場にたった支援を行いました。また、お客様の意思を尊重した日中活動の実施や、地域において自立した生活が行えるよう相談及び助言など、お客様の立場にたった支援を行いました。

○地域共生社会の実現

◇各管轄行政、各事業者との連携を強化し、どのサービスを利用しても安定した生活が提供できる仕組みを構築し、地域での生活が継続できるように努めました。

- ・地域での生活を継続できるよう、求められている役割を果たせるように努めました。
- ・お客様がどのサービスを利用しても同様のサービスが受けられるよう、各管轄行政、各事業者と定期的な情報交換を行いました。
- ・感染症対策を徹底し、安心してご利用いただける環境を提供しました。

○サービス内容

(1) 最先端技術の導入

◇介護ロボット導入による業務効率化を目指し、お客様への直接支援の質の強化、職員負担を軽減することができました。

- ・HitomeQ ケアサポートの活用を進め、お客様の安全に配慮した生活を提供しました。
- ・眠りスキヤンの活用を進め、お客様個々の睡眠の状況を可視化し、眠りの質の向上、健康の管理に活かすとともに、生活の質を向上することができました。
- ・移乗用リフトの増台と活用を進め、ノーリフティングケアを推進しました。ノーリフティングケアによるお客様の安全への配慮とお客様、職員の負担を軽減した環境作りをおこないました。

(2) 生活の充実

◇利用されるお客様個々の在宅生活に配慮し、お客様の個別性に対応した生活を支援しました。

- ・支援の記録を充実させるとともに情報共有をリアルタイムで行うことで、サービスの質を向上し、個別ケアの充実を目指しました。
- ・季節毎の行事に合わせて、イベントを行い、お客様の生活の充実を目指し、イベント開催に際しては、お客様に役割をもっていただき、職員と一緒に活動していただく機会を提供できました。

(3) 食事の充実

◇お客様にとって楽しみのある食事であるために、「美味しく、楽しく、健康に、食べる事は生きること。」を実践し、お客様の満足度の向上と食欲の増進ができました。

- ・お客様の嚥下能力の再確認し、適切な食事の形態、食事介助の方法による提供を目指しました。
- ・調理アトラクトを毎月行ない、普段にはない食事、おやつを提供しました。
- ・お客様がご自身で食事を選べるよう、選択食の機会を提供できました。
- ・お客様に対して嗜好調査を行ない、調査結果に基づいたメニューを提供しました。

(4) 権利擁護の徹底

◇権利擁護委員会において、継続的な虐待防止、身体拘束適正化、苦情解決に努めました。

- ・権利擁護委員会を原則、隔月 1 回以上開催しました。
- ・虐待防止については、全職員対象で虐待セルフチェックシートを年 2 回実施し、職員の意識向上に努めました。
- ・身体拘束が必要となった場合は、法で定めた手順に従い、身体拘束の必要性を十分に検討した上で、適切な対応を行いました。また身体拘束解除についての検討を継続的に行いました。
- ・委員会において、虐待、身体拘束に関する研修を実施し、虐待防止、身体拘束に対する職員の理解の向上に努めました。
- ・苦情解決については、お客様やご家族様に感じたことを意見しやすいよう、定期的な話し合いの機会を提供し、安心して生活できるように努めました。

(5) 健康管理

◇感染症に対する対策の基本である、1. 感染源の排除 2. 感染経路の遮断 3. 宿主(人間)の抵抗力の向上、これらを念頭におき感染症対策を講じました。

- ・日々の健康管理においては、お客様の日々の体温、血圧測定や体調の確認等を徹底しました。
- ・感染症予防委員会を原則、隔月 1 回以上開催し、感染症の流行情報収集と予防対策に努めました。
- ・委員会において、感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の知識の補強に努めました。

(6) 社会性の確保

- ・地域のボランティアの受け入れ、地域行事の防災訓練、盆踊り、祭事などへの参加し、積極的に地域との連携に努めました

2. 組織管理

お客様に高いサービス品質を提供するために、職員個々が自身の感じたことを提案できるよう職場環境を整備し、職種を越えたコミュニケーションの活発化が図れる雰囲気の良い職場を目指します。また職員自身の意見や提案が施設運営に反映されるような仕組みを取り入れ、職員個々の働き甲斐につなげることで、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう努めました。

(1) 研修等

◇職員個々の支援能力向上のため、障害特性について理解できるような外部研修への参加、内部研修を充実させ、支援力向上の機会を作り、生活支援員が積極的に研修に参加できるように努めました。

- ・内部研修として、オンラインでの研修の他、専門職、各委員会による研修を年間を通じて行いました。
- ・お客様の障害特性を理解するための研修に参加し、支援力の向上、生活の質の向上に努めました。

3. 安全管理

◇安全かつ適切に、質の高いサービスを提供するために、事故防止に努めました。

- ・リスクマネジメント委員会を毎月 1 回開催し、事故の再発防止に努めました。
- ・事故発生後は、速やかにリスクマネジメント委員を中心とした事故カンファレンスを実施し、HitomeQ ケアサポートを活用した原因の究明や再発防止策の検討をすること

ができました。

4. 防火・防災管理

◇お客様に安心して安全な環境で生活していただくために、防火、防災管理を徹底しました。

- ・お客様参加型の防火、防災訓練を行いました。
- ・災害発生時は、大田区の障害福祉避難所として、その機能を果たすよう努めました。

5. 行事

別紙1のとおり

6. 職員会議・研修

別紙2のとおり

Ⅲ. 障害者支援施設 アミークス東糞谷 (生活介護／通所)

1. 運営方針

お客様のニーズを把握した施設個別支援計画に基づいたうえで、お客様の立場にたった支援を行いました。お客様が自分らしい生活、希望される生活を送れるよう、お客様の意思及び人権を尊重し、サービスの質の向上に努めました。

感染症対策を年間を通して徹底し、お客様に寄り添ったより良いサービスの提供に向け、諦めない介護を実践しました。

○地域共生社会の実現

◇各管轄行政、各事業者との連携を強化し、どのサービスを利用しても安定した生活を提供できる仕組みを構築し、地域での生活が継続できるように努めました。

- ・地域での生活を継続できるよう、求められている役割を果たせるように努めました。
- ・お客様がどのサービスを利用しても同様のサービスを受けられるよう、各管轄行政、各事業者と定期的な情報交換を行いました。
- ・感染症対策を徹底し、安心してご利用いただける環境を提供しました。

○サービス内容

(1) 最先端技術の導入

◇介護ロボット導入による業務効率化を目指し、お客様への直接支援の質の強化、職員負担を軽減することができました。

- ・移乗用リフトの増台と活用を進め、ノーリフティングケアを推進しました。ノーリフティングケアによるお客様の安全への配慮とお客様、職員の負担を軽減した環境作りをおこないました。

(2) 快適な入浴

◇機能性を活かした入浴サービスの実施

- ・個浴、リフト浴、ストレッチャー浴をお客様の身体状況に合わせて、安全で快適な入浴を提供しました。
- ・音楽や入浴剤を活用し、お客様がリラックスした状態で入浴ができる環境づくりを行いました。

(3) 生活の充実

◇お客様一人ひとりの障害特性に寄り添った、個別ケアの提供ができました。

- ・お客様との面談から、個々の実現したいこと、したかったこと等のニーズの把握に努め、その達成を目標に設定し、意思決定支援の実現に努めました。
- ・支援の記録を充実させるとともに情報共有をリアルタイムで行なうことで、サービスの質を向上させ、個別ケアの充実を目指しました。
- ・お客様個々の疾病、年齢を考慮しながら、目標を達成するための個別支援計画、1日のスケジュールを作成し、自立支援、生活の質の向上を前提に支援を実施しました。
- ・季節毎の行事に合わせて、イベントを行い、お客様の生活の充実を目指し、イベント開催に際しては、お客様に役割をもっていただき、職員と一緒に活動していただく機会を提供できました。
- ・ユニット費を用い、お客様の個別性に合わせたサービスをユニットごとに提供できました。

(4) 食事の充実

- ◇お客様にとって楽しみのある食事であるために、「美味しく、楽しく、健康に、食べる事は生きること。」を実践し、お客様の満足度の向上と食欲の増進を図りました。
- ・お客様の嚥下能力の確認を徹底し、適切な食事の形態、食事介助の方法による提供を目指しました。
- ・調理アトラクトを毎月行ない、普段にはない食事、おやつを提供しました。
- ・お客様がご自身で選択できる機会を設け、選択食を提供しました。
- ・お客様に対して嗜好調査を行ない、調査結果に基づいたメニューを提供しました。

(5) 権利擁護の徹底

- ◇権利擁護委員会において、継続的な虐待防止、身体拘束適正化、苦情解決に努めました。
- ・権利擁護委員会を原則、隔月 1 回以上開催しました。
- ・虐待防止については、全職員対象で虐待セルフチェックシートを年 2 回実施し、職員の意識向上に努めました。
- ・身体拘束が必要となった場合は、法で定めた手順に従い、身体拘束の必要性を十分に検討した上で、適切な対応を行いました。また身体拘束解除についての検討を継続的に行いました。
- ・委員会において、虐待、身体拘束に関する研修を実施し、虐待防止、身体拘束に対する職員の理解の向上に努めました。
- ・苦情解決については、お客様やご家族様に感じたことを意見しやすいよう、定期的な話し合いの機会を提供し、安心して生活できるように努めました。

(6) 健康管理

- ◇感染症に対する対策の基本である、1. 感染源の排除 2. 感染経路の遮断 3. 宿主(人間)の抵抗力の向上、これらを念頭におき感染症対策を講じました。
- ・日々の健康管理においては、お客様の日々の体温、血圧測定や体調の確認等を徹底しました。
- ・感染症予防委員会を原則、隔月 1 回以上開催し、感染症の流行情報収集と予防対策に努めました。
- ・委員会において、感染症予防に関する研修を実施し、職員個々の知識の補強に努めました。

(7) 社会性の確保

- ◇お客様個々に外出機会を提供し、地域との結びつきを重視した支援を行い、生活の質の向上に努めました。
- ・買い物や鑑賞等、お客様個々が希望した外出を行い、社会とつながる機会を提供しました。
- ・地域のボランティアの受け入れ、地域行事の防災訓練、盆踊り、祭事などへ参加し、積極的に地域との連携に努めました。

2. 組織管理

お客様に高いサービス品質を提供するために、職員個々が自身の感じたことを提案できるよう職場環境を整備し、職種を越えたコミュニケーションの活発化が図れる雰囲気の良い職場を目指しました。また職員自身の意見や提案が施設運営に反映されるような仕組みを取り入れ、職員個々の働き甲斐につなげることで、職員が能動的にサービス品質の向上に寄与するよう努めました。

(1) 研修等

◇職員個々の支援能力向上のため、障害特性について理解できるような外部研修への参加、内部研修を充実させ、支援力向上の機会を作り、生活支援員が積極的に研修に参加できるように努めました。

- ・内部研修として、オンラインでの研修の他、専門職、各委員会による研修を年間を通じて行いました。
- ・お客様の障害特性を理解するための研修に参加し、支援力の向上、生活の質の向上に努めました。

3. 安全管理

◇安全かつ適切に、質の高いサービスを提供するために、事故防止に努めました。

- ・リスクマネジメント委員会を毎月1回開催し、事故の再発防止に努めました。
- ・事故発生後は、速やかにリスクマネジメント委員を中心とした事故カンファレンスを実施し、HitomeQ ケアサポートを活用した原因の究明や再発防止策の検討をすることができました。

4. 防火・防災管理

◇お客様に安心して安全な環境で生活していただくために、防火・防災管理を徹底しました。

- ・お客様参加型の防火、防災訓練を行いました。
- ・災害発生時は、大田区の障害福祉避難所として、その機能を果たすよう努めました。
- ・お客様参加型の防火、防災訓練を行いました。
- ・災害発生時は、大田区の障害福祉避難所として、その機能を果たすよう努めました。

5. 行事

別紙1のとおり

6. 職員会議・研修

別紙2のとおり

第五章 特別養護老人ホーム バタフライ ヒル大森南

I. 特別養護老人ホーム バタフライ ヒル大森南 (指定介護老人福祉施設)

1. バタフライヒル大森南としての取り組み

(1) 業界の行く末を担う次世代人材の育成と定着

外部環境の変化に適応するための視点や考え方が身に付くよう、様々な面からアプローチをするように努めました。リーダー層を中心に業界の将来を見据えて変化の方向性について共有する場を持つことで、理解の促進に努めました。特に委員会運営においては権限移譲をさらに推進し、運営や取り組みについて創造的なものになるよう助言しました。

各職員の目標立案とその進捗の後押しをするための面談を実施しました。目標に対する根拠と行動に対する成果に着目し、各職員の育成における課題を明確化しました。

資格取得については施設全体で介護福祉士 3 名の合格となりました。今後はその他の多種多様な資格取得の促進に努めていきます。

リーダー職員のマネジメントスキルの向上のため、管理者とリーダーの会議を定期的で開催しました。予定していた毎月の開催には至っていないため、状況に応じ開催頻度や会議内容の見直しを図ってまいります。

振り返り OJT については、複数回実施ができたものの指導者のリソース不足のため、事前に計画していた頻度に達していないため、次期についてはリソース確保をした上で実行してまいります。

職場環境の醸成については、有給取得率の向上や懇親会を複数回実施するなど取り組みを進めました。外国人職員との共生についても全職員の理解促進のため、外国人材に特化した研修の開催など工夫して取り組みました。

委員会運営については、主体性を持ち改善に取り組めるよう、管理者がアドバイザーとして助言やフォローを行う体制を構築し、改善を図ることができたものの、求める委員会運営には至っておらず課題もあるため、次期の課題として検討を進めてまいります。

(2) 介護サービスの充実

看取り介護については年度内で 10 件の実績がありました。それぞれの看取り介護について振り返る場を設け、今後の看取り介護の質の向上に向けて検討を進めました。

介護老人福祉施設としてサービスの質の向上を図るため、ユニットリーダー研修に新たに 1 名が参加しています。

また、サービスにおける様々な課題については、サービス品質向上委員会を立ち上げ、その中で検討した内容を取り組みに反映しました。

地域とのつながりにおいては、感染症による規制が緩和された中で、夏祭りに地域の方々やご家族様を招待しました。また、地域行事へ可能な限り参加することができました。次期についても積極的な地域との繋がりを意識し取り組んでまいります。

(3) 介護現場の生産性及びサービスの向上

介護現場の生産性の向上のため、介護ロボット導入推進検討委員会において、機器の導入や運用検討などに取り組みました。年度内に複数の機器を導入し、生産性の向上を目指しました。

またスマート介護士の資格取得率も目標値を超えて取得者が増加しました。

一方、課題として成果を最大限出すための活用や運用まで至っていないという点が挙げられます。

次期については生産性の向上及びサービスの質の向上に対する成果を出していくため、生産性向上委員会を立ち上げ、導入した機器などを最大限活用し、取り組みにおける成果を検証していけるよう体制の再編成を行います。その成果の中で、ご利用者様に対するサービスの質の向上に対する成果も併せて追求するように取り組んでまいります。

2. 施設行事

別紙のとおり

3. 職員会議・研修

別紙のとおり

4. 予算に関する取り組み

介護保険収入について、年間予算稼働の97%には届かず94.8%での着地となりました。主な要因として待機者の減少に伴う空床の増加、入院者及び入院日数の増加が挙げられます。待機者確保に向けて計画的かつシームレスな入所調整を図ることができる体制を再構築し、利用希望者に対して社会資源の有効活用につながるよう努めてまいります。

また、入院については前期と比較し約1.8倍の増加となっています。介護サービスに起因しない入院が多いものの、誤嚥性肺炎及び尿路感染などの疾病、骨折など事故に伴う入院については、各委員会で細やかな入院抑制施策を検討し実行いたします。

支出の大部分を占める人件費については、人件費率55%以内で着地をしており、次期も介護現場の生産性の向上と併せて費用の抑制に努めてまいります。

また、物価高騰が継続する中、水道光熱費については削減目標値を大幅に超えた削減につなげることができているため、次期も継続して健全な運営に努めてまいります。

II. ショートステイ バタフライ ヒル大森南 (短期入所生活介護)

1. ショートステイ バタフライヒル大森南としての取り組み

(1) 業界の行く末を担う次世代人材の育成と定着

外部環境の変化に適応するための視点や考え方が身に付くよう様々な面からアプローチをするように努めました。リーダー層を中心に業界の将来を見据えて変化の方向性について共有する場を持つことで理解の促進に努めました。特に委員会運営においては権限移譲をさらに推進し、運営や取り組みについて創造的なものになるよう助言しました。

各職員の目標立案とその進捗の後押しをするための面談を実施しました。目標に対する根拠と行動に対する成果に着目し各職員の育成における課題を明確化しました。

資格取得については、施設全体で介護福祉士 3 名の合格となりました。他の多種多様な資格取得の促進に努めていきます。

リーダー職員のマネジメントスキルの向上のため、管理者とリーダーの会議を定期的開催をしました。予定していた毎月の開催には至っていないため、状況に応じ開催頻度や会議内容の見直しを図ってまいります。

振り返り OJT については、複数回実施ができたものの指導者のリソース不足のため、事前に計画していた頻度に達していないため、次期についてはリソース確保をした上で実行してまいります。

職場環境の醸成については、有給取得率の向上や懇親会を複数回実施するなど取り組みを進めました。外国人職員との共生についても全職員の理解促進のため、外国人材に特化した研修の開催など工夫して取り組みました。

委員会運営については、主体性を持ち改善に取り組めるよう、管理者がアドバイザーとして助言やフォローを行う体制を構築し、改善を図ることができたものの、求める委員会運営については至っておらず課題もあるため、次期の課題として検討を進めてまいります。

(2) 在宅生活へのアプローチ

ご利用を通じて、在宅生活と介護サービス事業所での生活が豊かになるよう可能な限り、居宅介護支援事業所の介護支援専門員やご家族様との連携強化に努めました。施設サービス計画書及び利用報告書、退所時のご家族様への状況報告に努めることで施設の利用と在宅生活に繋がりを持つよう取り組みました。

また、在宅高齢者の緊急的なニーズに応えていくため、緊急の利用や申し込みに対しても可能な限り調整を進めることで、施設としての社会的責任を果たせるよう取り組みました。次期についてもそれらの取り組みを一層強化し、在宅での生活が施設利用を通じより充実したものになるよう、ご利用中のサービスの在り方について検討や改善を進めてまいります。

(3) 介護現場の生産性及びサービスの質の向上

介護現場の生産性の向上のため、介護ロボット導入推進検討委員会にて機器の導入や運用検討などに取り組みました。年度内に複数の機器の導入し、生産性の向上を目指しました。

またスマート介護士の資格取得率も目標値を超えて取得者が増加しました。

一方、課題として成果を最大限出すための活用や運用まで至っていないという点が挙げられます。

次期については生産性の向上及びサービスの質の向上に対する成果を出していくため、生産性向上委員会を立ち上げ、導入した機器などを最大限活用し、取り組みにおける成

果を検証していけるよう体制の再編成を行います。その成果の中で、ご利用者様に対するサービスの質の向上に対する成果も併せて追求するように取り組んでまいります。

2. 施設行事

別紙のとおり

3. 職員会議・研修

別紙のとおり

4. 予算に関する取り組み

予算の根拠になる稼働については、年間予算稼働 123%としておりましたが 132.9%で着地しています。数字の根拠としては、入所の空床が多く空床利用を積極的に利用できたこと、緊急利用や急な申込みに対する調整を可能な限り行ったことが挙げられます。

次期以降も急なニーズへの対応や調整はもちろんのこと、サービス面で利用希望者に選択していただけるようサービスの質の向上に努めてまいります。

物価高騰が継続する中、水道光熱費については削減目標値を大幅に超えた削減につなげることができているため、次期も継続して健全な運営に努めてまいります。短期入所については今期の結果を踏まえて次期の予算稼働を 125%に引き上げ、取り組みを継続してまいります。

第六章 特別養護老人ホーム バタフライ ヒル細田

I. 特別養護老人ホーム バタフライ ヒル細田 (指定介護老人福祉施設)

1. バタフライヒル細田としての取り組み

(1) お客様一人ひとりのニーズに合わせた個別ケアの提供をしました。

お客様一人ひとりに居室担当を配置し、各専門職と共にサービス担当者会議を実施しました。サービス担当者会議では、お客様の課題を共通理解し、その方の生活機能向上に対する目標や支援方針を協議しました。

居室担当者がサービス担当者会議に参加することで、お客様一人ひとりのことをより深く知ることができ、その方のニーズや目標に合わせたケアを検討することができました。会議の際は、それぞれのお客様のアセスメントシートを持参し、専門職含めご本人様の状態を見える化し、統一したケアが行われているかの会議を行いました。会議で決定したケアが適切なものであったか、お客様やご家族が満足されているかについて、こまめに情報収集や観察を行いました。

各フロアにテクノロジー機器を導入し、科学的根拠を用いたケアの検討を行いました。お客様に安心、安全な生活を送っていただけるよう職員同士で定期的に情報共有を行いました。

毎月ユニット MTG を行い、お客様のケアの見直しを行いました。その方が何を望んでいるのか、どのようにサポートすべきかを検討し、統一したケアを行うことができました。

(2) 余暇活動の充実を図りました。

自立支援委員会を中心に、お客様の機能訓練を目的とした毎月のレクを企画し、お客様に楽しんでいただくことができました。

調理レクでは、季節の食材を使用したおやつ作りや、お客様のリクエストから調理するものを検討しました。手作りの食事は普段とは違った美味しさがあると、皆様に楽しんでいただくことができました。

地域の盆踊りへの参加、近所の神社や公園へ散歩に行くなど、外出の機会も多く取り入れ、日々の生活の楽しみを提供することができました。また、洋服やお菓子の移動販売に来ていただき、お客様自身で選び、購入する楽しみの提供を行いました。

(3) 職員の育成を強化して質の高いサービス提供を目指しました。

職員一人ひとりのスキルアップを目指すため、内部研修の開催や外部研修への参加を行いました。

内部研修では各委員会が主体となり、事前に課題を取り上げ、職員へ向けた研修を行いました。課題達成のために必要な知識を得るべく、各自が外部の研修に参加したり情報収集を行い、委員会ミーティングで内容を考え、職員間での理解を深めました。

外部研修では職員個々のニーズに合わせた研修の提供として積極的に情報提供を行いました。また、職員のレベルアップを目的として外部研修を計画し、参加を促しました。

新任職員には OJT 研修マニュアルに沿って、職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を行い、担当者と共に評価、実施を行いました。

中途職員には介護基礎研修として、知識や技術を再認識する場を設けました。

(4) 感染症対策・予防の徹底をしました。

感染症委員会は毎月開催し、感染症委員会が中心となり、感染予防に努めました。

新型コロナウイルスの蔓延に備え、職員や来設されたお客様への検温及びマスク着用の徹底、2時間おきの換気、テーブル等の消毒も行いました。

食中毒の流行時期には、手洗い研修として正しい手洗いの方法を職員へ周知し、インフルエンザやノロウイルス等の感染症の流行時期には、感染症の基礎知識や予防策、手洗い方法についての研修を行いました。

出勤時には職員一人ひとりが検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底し、個々の体調管理を促しました。

(5) 施設内で委員会を設けケアの向上を図りました。

各委員会で目標を定め、同じ目標に向けて取り組める環境作りを目指しました。月に1度のMTGで課題を話し合い、それを解決するために施設全体で取り組んでまいりました。

(6) 安定した稼働率を確保しました。

稼働MTGを月1度行い、専門職やリーダーを中心に、自施設の課題解決に努めました。また、月1度のUL全体MTGにて課題や解決方法の共有を行い、施設全体で課題解決の取り組みを行ってまいりました。

相談員を中心に新規お客様の実態調査及びご家族様面談を行うことで、待機者数の確保、空床期間の短縮、スムーズな入所の案内に努めました。他専門職の協力を得ながら、医療依存度の高いお客様も入所ができるよう、医療連携を図りました。

看護を中心にお客様の健康管理を行い、異常の早期発見、対応を行いました。転倒等の事故による入院が発生しないよう、テクノロジーを活用し事故防止にも努めました。

入院が長期化せぬよう、入院中の状態確認やご家族様の意向を確認しながら退院の調整を行いました。

(7) 最先端技術の普及と活用をしました。

介護ロボットやICT機器の活用を行い業務効率化、介護職員の負担軽減を目的に活動してまいりました。

夜間お休みになられているお客様の睡眠を妨げることを無いう、睡眠のデータを確認しながらのラウンド、排泄介助等の介護業務を執り行うことができました。見守り機器等を活用することで必要以上の訪室を避け、睡眠確保、プライバシーの保持を優先するよう心掛けいたしました。

また、骨伝導インカムや自社で開発した介護記録アプリを使用し、記録時間の短縮、連絡調整の迅速化を図りました。

2. 施設行事

別紙1のとおり

3. 職員会議、研修

別紙2のとおり

Ⅱ. ショートステイ バタフライ ヒル細田 (短期入所生活介護)

1. バタフライ ヒル細田としての取り組み

(1) 在宅ケアにフィードバックできるようなケアの確立をしました。

初回のご自宅訪問にて、ご本人様の ADL はもちろんのこと、生活歴や趣味等も確認させていただき、短期入所生活介護計画書を作成いたしました。また、初回に限らず 2 回目以降のご利用時も、ご家族様やご本人様のニーズをお聞きし、ニーズにお応えできる計画を立案いたしました。計画に沿った退所報告書を、ご家族様や居宅のケアマネージャーへお渡しし、施設でのご様子はもちろんのこと、介助方法や介助を受けている際のご様子などを記載し、実際に対応している職員からの意見やアドバイスなどの情報を提供するようにいたしました。ご家庭で介護をされている介護者の方へスムーズに情報提供ができるよう心掛けてまいりました。

また、ご利用中に体調に変化がある場合は、職員同士だけでなく、ご家族様や担当ケアマネージャーへ連絡を行い、積極的に情報交換を行いました。

担当者会議にも参加をすることで、ご利用状況の様子などを各サービス担当者へ共有し、在宅ケアの統一を図りました。

ベッド上での動き、呼吸数、心拍などを測定し、睡眠状態を測定する機械を導入することで、利用中の睡眠状況や入眠時間、起床時間の確認を行い、個々に合ったタイミングで排せつや体位変換等のケアの実施を行いました。

睡眠状態を測定する以外にもテクノロジーを活用し科学的にアセスメント、モニタリングを行い、ご家族様や担当ケアマネージャーへフィードバックを行いました。

(2) 利用期間中は役割をもった生活を提供しました。

在宅生活の延長線上として、自宅やデイサービスなどと同じように、役割のある生活が送れるように支援いたしました。

新規のお客様については、初回の自宅訪問の際に、生活歴やご趣味、熱中されていた事やお好きな事等を細部まで聞き取り調査を行い、リピーターのお客様については、初回聞き取りからのニーズに変化は無いか確認を行いました。

ニーズを実現できるようにアセスメントへ反映し、職員、ご家族様と共有いたしました。また、居宅ケアマネージャーから頂いたケアプランを現場へ共有し、自宅での生活を共有いたしました。

お客様のニーズに合わせた活動と余暇活動を提供できるようにレクスペースを設け、安全に体操やレクリエーション、カラオケが行えるように設備致しました。

機能訓練指導員主導のもと、体操の取り組みも行いました。

その他に、調理レクや季節にあった作品作りを通して、お客様同士の交流をもっていただきお楽しみいただきました。

(3) 職員の育成を強化して質の高いサービス提供を目指しました。

質の高いサービス提供を行うことができるように、職員の成長と組織の発展の双方を目指す職場研修を実施しました。職場研修を行うことで、職員がやりがいを感じると同時にキャリアアップ促進を目指しました。

職員一人ひとりのスキルアップを目指すため、内部研修の開催や外部研修への参加を行いました。

内部研修では各委員会が主体となり、事前に課題を取り上げ、職員へ向けての研修を行いました。課題達成のために必要な知識を得るべく、各自が外部の研修に参加したり情報収集を行い、委員会ミーティングで内容を考え、職員間での理解を深めました。

外部研修では職員個々のニーズに合わせた研修の提供として積極的に情報提供を行いました。また、職員のレベルアップを目的として外部研修を計画し、参加を促しました。

新任職員には OJT 研修マニュアルに沿って職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を行い、担当者と共に評価、実施を行いました。

中途職員には介護基礎研修として、知識や技術を再認識する場を設けました。

ショートステイのお客様が重度化傾向にあるため、施設看護師指導のもと、医療面への学びを深めることができるよう、随時勉強会、個人の知識習得に努めました。

(4) 感染症対策・予防の徹底をしました。

感染症に対する対策の基本である、①感染源の排除②感染経路の遮断③宿主（人間）の抵抗力の向上、これらを念頭におき感染症対策を講じます。

感染症委員会は毎月開催を行い、感染症委員会が中心となり、感染予防に努めました。新型コロナウイルスの蔓延に備え、職員や来設されたお客様へのマスク着用の徹底、職員の毎週 1 回の PCR 検査、2 時間おきの換気、テーブル等の消毒も行いました。食事前にはアルコール消毒にて手指消毒を行いました。

食中毒の流行時期には手洗い研修として正しい手洗いの方法を職員へ周知し、インフルエンザやノロウイルス等の感染症の流行時期には感染症の基礎知識や予防策、手洗い方法についての研修を行いました。

出勤時には職員一人ひとりが検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底し、個々の体調管理を促しました。

(5) 施設内で委員会を設けケアの向上を図りました。

施設内の課題に合わせた委員会を設け、各委員会が年間目標を設定しその目標達成のために年間計画を立案、実施いたしました。

各委員会で目標を定め、同じ目標に向けて取り組める環境作りを目指しました。月に 1 度の MTG で課題を話し合い、それを解決するために施設全体で取り組んでまいりました。

(6) 最先端技術の普及と活用をしました。

高齢化が進む日本では、介護人材不足が大きな課題となっています。介護分野の人材を確保する一方で、高齢者の自立支援を促進し、質の高い介護を実現するためにロボット・センサー等のテクノロジーの活用を行いました。

介護ロボットや ICT 機器の活用を行い業務効率化、介護職員の負担軽減を目的に活動してまいりました。

夜間お休みになられているお客様の睡眠を妨げることが無いよう、睡眠のデータを確認しながらのラウンド、排泄介助等の介護業務を執り行うことができました。見守り機器等を活用することで必要以上の訪室を避け、睡眠確保、プライバシーの保持を優先するよう心掛けいたしました。

また、骨伝導インカムや自社で開発した介護記録アプリを使用し、記録時間の短縮、連絡調整の迅速化を図りました。

2. 施設行事
別紙1のとおり
3. 職員会議、研修
別紙2のとおり

第七章 フラクタルビレッジ西六郷・羽田・大森南 (認知症対応型共同生活介護)

1. フラクタルビレッジとしての取り組み

(1) 認知症ケアの確立に向けて

認知症ケア向上委員会を中心に、お客様一人ひとりの認知症状に合わせたケアが行えるようにアセスメントを行い、ケアの提供方法などを検討して実践してきました。特に、対応方法が難しいお客様については、課題解決表を活用しながら、何が原因なのかどのように対応するとよいかなどを、委員会メンバーで検討して対応方法の提案を行っていきました。それにより、いろいろな対応方法を検討することができ、少しずつではありますがお客様が落ち着いて生活できるようになりました。

また、今年度も野菜などの栽培、みずやり、収穫、調理などを手伝っていただきながら、認知症の予防対策として取り組みました。

日常生活の中では、役割（洗濯をたたむ・ゴミを捨てる・掃除を行うなど）をもっていただき、職員と一緒に役割に合わせて作業が行えるように支援を実施しました。

先端技術（介護ロボット）の活用においては、見守りセンサーを必要なお客様に設置して、転倒予防が図れるように活用を行ってきました。今後もサービスの向上や職員の介護負担の軽減が図れるように活用していきたいと思えます。

夢プランに関しては、今年度より再開して数名のお客様ではありますが、実施することができました。夢プランを実施したお客様やご家族様には大変喜んでいただきました。今後も継続してお客様の「夢」を叶える企画を行うことができるように取り組んでいきます。

(2) 社会参加を促し地域の方との交流を図る

コロナ後、地域交流の機会が希薄になっていましたが、昨年度から少しずつ地域行事への参加を行ってきました。今年度も盆踊りなど地域の行事へ参加し、地域交流に努めてまいりました。

運営推進会議は、地域の方やご家族様が参加していただき、有意義な意見交換の場になりました。今後もご家族様の参加が増えて意見交換が行えるように、対応していきたいと考えています。

2. 施設行事

別紙1のとおり。

3. 職員会議・研修

別紙2のとおり。

第八章 ケアサポートセンターリンクス羽田/大森中 (居宅介護支援事業所)

1. ケアサポートセンター リンクス羽田/大森中としての取組み

(1) 居宅介護支援事業所としての基盤強化

区内で事業所を 2 か所展開し、周辺の地域包括支援センターや地域のお客様に支持を頂くことができました。特に羽田は地域包括支援センター羽田をはじめ、糀谷羽田エリアにおいて複数のご相談を頂くことができました。大森中は、エリア外の近隣にある地域包括支援センターから信頼を頂き、多くのご相談を頂く関係性となりました。

包括主催の地域での勉強会に積極的に参加をし、近隣の事業所との新たな関係を構築することができました。また、昨年から引き続きリンクス 2 か所で合同の会議及び勉強会を行い、全体としてスキルアップが図れる取組みを行いました。

(2) 地域へのアプローチおよび関係機関との連携

業務効率化のため ICT 化を推し進めており、新たにアプリを導入し、ケアマネジャー一人一人が使用できるレベルになりました。また他社とのコミュニケーションにおいては、ICT 機器を使ったコミュニケーションの依頼などを積極的に行い、地道に ICT 連携可能な事業所を増やしました。

社外の事業所と合同の勉強会が年間 2 回開催され、各自役割を持って参加し、地域のケアマネと意見を交わし合う機会を得てスキルアップを図りました。

管轄地域の地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、包括職員や地域のケアマネジャー、民生委員の方など様々な立場の方と交流の機会を持つことができました。

(3) ケアマネジメントの質の向上及び業務効率化

ケアマネジャーの業務効率化のために、事務員を配置しました。また新たに AI を使ったアプリを導入し、一部の帳票作成時間を 80%ほど大幅に削減させることができました。

ケアプラン点検を所内で年 1 回実施しましたが、困難なケースが多いため、事例検討を優先して多く実施しました。

社内の内部監査を年 2 回開催しました。その他に都度、管理者が帳票関係をチェックしコンプライアンスに努めました。

職員が自身で目標設定し、3 カ月～6 カ月に 1 回管理者と面談し、目標達成に努めました。

(4) 法人間でのネットワーク強化

複合サービスを展開する法人の強みや社内チャット等 ICT を活かし、お客様がサービスを希望された場合には、スピーディーに調整することができ、安心感や信頼感を獲得することができました。

また、お客様や地域の事業所に対して、訪問先で積極的に使用することで、先端機器を活用している事業所というイメージを持っていただくことができました。

(5) やりがいと満足感を得られる職場環境の構築

職員のワークライフバランスに配慮できるよう、在宅勤務や変形労働制による勤務時間の変更等を柔軟に取り入れて対応することができました。

管理者との個別ミーティングは 1～3 カ月に 1 回程度行い、管理者は各職員の抱える状況や悩みに配慮できるよう努めました。

定例会議など日々のコミュニケーションにより、各職員の意見や考えが話せる環境づくりを行いました。

第九章 サンタフェ総合研究所

(福祉事業者等への経営支援・介護機器メーカーの開発支援・福祉人材育成事業)

1. 事業運営の基本方針（基本理念・方針）

私たち社会福祉法人善光会は、「業界の行く末を担う先導者になる」を理念の一つに掲げ、これまで効率的介護サービス提供モデルの開発や先端的経営手法の導入を行ってまいりました。

令和6年度においても、「経営支援による事業所倒産の抑制」と「当法人の社会福祉事業および公益事業の継続性担保」という、二つの目的の下で福祉事業者等の経営支援事業と社会福祉に関する事業とともに政府等への政策提言を進めました。

また、昨年度に引き続き、加速度的に変化する介護福祉業界環境に対応できる福祉人材を育成するために創設した福祉人材育成に関する事業の啓発のほか、これまでの知見を元に介護施設・介護機器メーカーに対しての支援の協力も実施いたしました。

2. 事業内容

- ①福祉事業者等への経営支援等事業
- ②社会福祉の増進に資する人材の育成に関する事業
- ③介護機器メーカーへの開発支援事業

3. 令和6年度の事業内容

(1) 介護の持続可能性向上や介護周辺事業拡大のための政策提言活動

善光会で培ったオペレーションモデルを全国及び国外に広げることで、国内外の介護の持続可能性と質の向上を実現するべく、立法府・行政府・地方自治体を含めて政策提言活動を実施してまいりました。

例えば、日中韓保健大臣会合のプログラムの受入れを善光会で実施することにより、各国に介護領域でのデジタル活用の知見を深め、同会合の共同宣言において、介護領域のテクノロジー活用を共同で検討していく旨の記述が盛り込まれました。

(2) 施設向け経営改善事業構築への協力・福祉人材育成の啓発

地方自治体向けの介護事業所支援事業として、介護機器の導入や業務改善の手法に係る行政事業提案や講演・セミナーなどを実施いたしました。また、スマート介護士の受験を奨励するための啓発活動を実施いたしました。

(3) 介護機器メーカー向け開発支援への協力

介護機器の開発を行う会社様向けに機器の開発における相談や効果検証のための実証実験への協力を実施いたしました。

社会福祉法人 善光会 令和6年度事業報告 以上

【事業報告書別紙1】施設別年間行事実施報告書

項目	施設別年間行事実施報告書										災害訓練		健康管理・衛生管理				
	フローズ東糀谷			アクア東糀谷		アミークス東糀谷		フラクタルビレッジ		バタフライヒル大森南		バタフライヒル細田		日	内容	日	内容
月	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	
7月		流しそうめんレク (各階で行う。16・7・23・25)	7	七夕レク	24	通所かき水レク	7	七夕レク(西六郷・羽田・大森南)	1	七夕イベント (～7日)	7	全体 七夕レク	11	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	30	安全衛生委員会	
			11	リハビリレク			13	みんなで体操(羽田)	21	地域盆踊り (～22日)	10	2.3F 流しそうめんレク			3	【サンタフェガーデンヒルズ】 エアコンフィルター清掃	
			27	縁日			17	盆踊り(大森南)	21	介護美容(入所)	23	全フロア 柴又花火大会鑑賞会			4	エアコンフィルター清掃	
							25	納涼祭(羽田)	21	介護美容(入所)	28	2.3F 長寿を祝う会			23	【バタフライヒル大森南】 グリストラップ洗浄	
							27	羽田祭り(羽田)	31	介護美容(SS)	12	SS 土用の丑の日レク SS 暑中お見舞いはがき作成レク 選べるおやつレク			17	【バタフライヒル細田】 グリストラップ洗浄	
	8月	6	かき水レク(5・6階合同) ホーム喫茶(4階) 縁日(3階)	8	リハビリレク	8	通所スヌーズレン	25	納涼祭(西六郷→コロナにより中止)	3	ずいか割り (～5日)	7	全体 スイカ割り	21	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	16	安全衛生委員会
						18	サンタフェスタ	23	相撲観戦(羽田→体調不良にて中止)	18	バタフライフェスタ	9	全体 盆踊り			10	【サンタフェガーデンヒルズ】 グリストラップ洗浄
						19	通所スヌーズレン	25	納涼祭(大森南)			25	2.3F 長寿を祝う会	8	【バタフライヒル大森南】 水害避難訓練	21	水質検査用採水
												28	全体 かき水レク			21	【バタフライヒル大森南】 水質検査用採水
												29	全体 かき水レク 選べるおやつレク	26	【バタフライヒル細田】 自衛消防訓練	31	エアコンフィルター清掃
9月		15	敬老会	5	落語	24.26	通所納涼祭、ポッチャ大会	15	敬老の日レク(西六郷・大森南)	1	花火レク (各フロア～30日)	9	3F 手持ち花火レク	2	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	27	安全衛生委員会
				12	リハビリレク			16	敬老の日レク(羽田)	7	子ども神輿	16	全体 敬老会			4	【サンタフェガーデンヒルズ】 ろ過装置点検
				17	お月見			17	お月見レク(西六郷)	15	介護美容(入所)	23	2F 手持ち花火レク	29	【フラクタルビレッジ】 消防訓練(西六郷)		
								29	お月見レク(大森南)	16	敬老祭	29	長寿を祝う会			6	【バタフライヒル細田】 グリストラップ洗浄
										30	介護美容(SS)	10	SS 手持ち花火レク 選べるおやつレク			30	エアコンフィルター清掃

【事業報告書別紙1】施設別年間行事実施報告書

項目	施設別年間行事実施報告書									災害訓練		健康管理・衛生管理				
	フローズ東糀谷			アクア東糀谷		アミークス東糀谷		フラクタルビレッジ		バタフライヒル大森南		バタフライヒル細田		日	内容	日
月	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
1月	1-3	甘酒配り	1	甘酒	13-17	絵馬づくり	1	お正月レク(西六郷・大森南) 初詣(羽田)	1	巫女甘酒配布	1	全フロア 甘酒レク	31	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	17	安全衛生委員会
			14	落語			22	仲七café交流会(羽田)	1	おせち提供	14	3F 書初めレク		【バタフライヒル細田】 自衛消防訓練	30	【サンタフェガーデンヒルズ】 エアコンフィルター清掃
							31	自動運転バスに試乗(羽田)	1	初詣 (各フロア～31日)	20	全体 初詣レク	15		31	エアコンフィルター清掃
2月		バレンタインレク (各階にて実施)	10	落語	18	バレンタインレク(チョコクラン ンチデコ)	2	節分レク(西六郷・羽田)	2	節分豆まき (各フロア～14日)	14	全体 バレンタインレク	21	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	21	安全衛生委員会
							3	節分レク(大森南)	22	SS調理活動(すいとん汁)	3	全体 節分レク		6	【サンタフェガーデンヒルズ】 水質検査用採水	
											1.2	SS 節分工作レク 選べるおやつレク		17	厨房排水管洗浄	
														25	厨房排水溝・排水溝蓋洗浄 グリストラップ洗浄	
														3	【バタフライヒル大森南】 エアコンフィルター清掃	
3月		ひな祭りレク (各階にて実施)	10	落語	28	かむる坂お花見レク(ドライ ブ)	1	梅鑑賞レク(大森南)	10	外出イベント	3	3F ひな祭りレク	27	【サンタフェガーデンヒルズ】 自衛消防訓練	21	安全衛生委員会
							2	梅鑑賞レク(西六郷)	24	ウクレレ演奏会	23	2, 3F 長寿を祝う会		4	【サンタフェガーデンヒルズ】 ろ過装置点検	
							3	お雛様(羽田) ひな祭りレク(大森南)	24	SS調理活動(けんちん汁)	24	選べるおやつレク	3	【バタフライヒル大森南】 自衛消防訓練 (オンライン～28日)	19	簡易専用水道検査
							12	仲七café交流会(羽田)	31	介護美容(SS)			12	【バタフライヒル細田】 自衛消防訓練	22	【バタフライヒル細田】 エアコン、加湿器フィルター清掃
							24	買物レク(羽田)								
							27	子供食堂お手伝い(羽田)					12-19	【フラクタルビレッジ】 自衛消防訓練(大森南)		

